

免疫発光測定装置仕様書

免疫発光測定装置 一式

I 主な仕様

- 1 分析方式がディスクリートシングルライン ランダムアクセスであること。
- 2 同時分析項目が 24 項目であること。
- 3 処理能力が 180 テスト/時間であること。
- 4 検体架設はラック方式であること。
- 5 1 ラック 5 検体立てられること。
- 6 最大 10 ラック、50 検体架設可能なこと。
- 7 検体ラックとは別に、STAT による緊急分析が可能であること。
- 8 サンプル分注はディスポーザブルチップによるピペッティング方式であること。
- 9 ディスポーザブルチップを 280 本架設可能で随時追加可能であること。
- 10 サンプルングは 10~25 μ L であること。
- 11 1 テストの反応時間が 10 分以内で、ファーストレポート 10 分 40 秒であること。
- 12 測定試薬の形態がディスポーザブルタイプカートリッジ封入タイプであること。
- 13 試薬、消耗品の架設が随時可能であること。
- 14 装置の試薬庫に保冷機能 ($7 \pm 3^{\circ}\text{C}$) が付いていること。
- 15 純水装置が不要であること。
- 16 測定原理はルミノールまたは L-012 を用いた化学発光方式酵素免疫法であること。
- 17 磁性粒子「マグラピッド®」を固相に採用していること。
- 18 磁性粒子、発光基質、発光試薬がディスポーザブルタイプカートリッジに封入されていること。
- 19 活性型レニン濃度、血漿アルドステロン濃度が測定項目に含まれていること。
- 20 画面は 17 インチのカラー液晶パネルであること。
- 21 操作は画面タッチパネル方式を採用し操作容易なこと。
- 22 使用言語は日本語対応であること。
- 23 バーコード読み取りにより検体 ID 番号等の認識が可能なこと。
- 24 バーコード読み取りによりラック ID 番号等の認識が可能なこと。

- 25 試薬カセットの二次元コード読み取りにより項目、ロット、有効期限などの認識が可能なこと。
- 26 基本検量線の二次元コード読み取りにより項目、ロット、基本検量線情報などの登録が可能なこと。
- 27 コントロールセットに同梱の二次元コード読み取りにより、項目名、濃度別、参考値、参考値幅、ロット、有効期限の登録が可能なこと。
- 28 キャリブレーター、コントロールに同梱のバーコードを使用する事により、自動登録、自動依頼での分析が可能であること。
- 29 一般検体、緊急検体及び再検検体の合計で 20,000 テスト保存可能なこと。
- 30 QC データを 15,000 テスト保存可能なこと。
- 31 キャリブレーションデータを 5,000 テスト保存可能なこと。

II その他

当該仕様書と同等の機能を有していることが確認できた場合、仕様条件の可否については総合的に判断する。